

研究結果報告書

福沢諭吉は、著名な思想家、教育家、「国民の教師」として、慶応義塾の創立・経営という教育実践をただけでなく、歴大な教育論説を出して、国民的な教育啓蒙に携わっていた。本研究は、それを解読するうえで、福沢諭吉の教育思想について、下記の研究結果を得た。

第一、福沢諭吉の教育思想の構造的特徴。上沼八郎氏は福沢諭吉の教育論を「機能的側面」としての「知育・徳育・体育という三位相」に、「領域的側面」としての「家庭・学校・社会の三領域」に分類したが、福沢の最も重要視した教育目的、教育行政を言及しなかった。本研究は、福沢諭吉の教育思想には全体的に円錐のような構造を持っていると考える。即ち、「教育目的」を統帥的な存在として円錐の頂点に、「知育・徳育・体育」（教育内容）をそれぞれ縦の三本線に、「家庭・学校・社会」（教育機関）をそれぞれ横の三本線に、「教育行政」を大黒柱のように真ん中の空間に位置づけて、「教育行政」が縦と横の六本線を関与しながら「教育目的」を支えるという内部的なメカニズムを見出すことができるのである。

第二、福沢諭吉の教育思想と現代教育との「絆」。福沢諭吉が主張した教育目的は、「実業者を作る」ことによって「国を富ます」ことである。それは封建社会の仕官や修身という政治的・個人的な教育目的と違った、教育の経済的、国家的な役割を重視したものであり、現代の知識基盤社会においても一層強調されているものであろう。また、「学問教育も一種の商売品」、「文部省直轄の学校をして独立せしめん」という見解は現在の教育産業化や国立大学法人化の嚆矢だと言えよう。さらに、「天下は一場の大学校」、「学問は生涯せよ」という家庭・学校・社会一体論は現在の「生涯学習」理念と同様なものであろう。

研究成果の公表について(予定も含む)

口頭発表 (題名・発表者名・会議名・日時・場所等)

1、『社会転換期における新たな教育目的 福沢諭吉の教育目的論』

(2011年9月17日)(南開大学日本研究院歴史・文化研究会発表)

論文 (題名・発表者名・論文掲載誌・掲載時期等)

1、 『社会転換期における新たな教育目的 福沢諭吉の教育目的論』

(2012年2月投稿) 『日本問題研究』 審査中

2、 『「生涯学習」の先導 福沢諭吉の「学校」・「家庭」・「社会」一体論』

(2012年3月投稿) 『東北亜研究』 審査中

書籍 (題名・著者名・出版社・発行時期等)